

<第2議案>

2022年度収支決算(案)

8～9ページの2022年度損益計算書(自2022年1月1日至2022年12月31日)と貸借対照表(2022年12月31日現在)をもって、2022年度収支決算とする。損益計算書は、「一般会計」と2018年に設立した「次世代基金」に区分して示してある。

I 損益計算書

2022年度決算のポイントは以下の通りである。

1 収入の部

1.1 会費収入について

会費収入は対予算比約57万円の減収であり、予算執行率は87%である。

1.2 事業収入・支出について

『ピース・アルманаック2022』発行の結果、書籍販売収入は約122万円である。

「講演・執筆」は予算比約5万円増、「情報サービス・調査受託」は予算比1万円減である。

1.3 寄付金収入、助成金収入について

寄付金収入は、予算比で2万円増となった。4度延期されていたNPT再検討会議への海外派遣 캠페ンは、ほぼ予算通りの42万円になった。目的を持った 캠페んに、相当額が集まり、円安や航空機運賃の値上げで旅費が高くなっていたのに対応することができた。

助成金では、「よこはま夢ファンド」は、2022年分として1,950,000円の寄付を受けたが、前年より約50万円減少した。3年間続いたアユス仏教国際協力ネットワークの「NGO組織強化支援事業」は2021年度で終了したが、1月から3月までの約30万円の支援金を受けた。

1.4 当年度収入合計

当年度収益合計は、予算比で助成金収入135万円減、会費収入57万円減、事業収入31万円減などにより予算比で約222万円減となった。

2 支出の部

2.1 事業費の支出全体としては予算比161万円減となった。これは、主として4月よりスタッフが1名、非常勤1名体制になったことによる。

2.2 管理費支出は、全体としては約26万円増である。臨時雇い賃金が約87万円増。賃貸料は予算比23万円減であるが、これは5月半ばより引越しをしたことで賃貸料が月3.7万円安くなったことによる。「その他」約48万円のほとんどは引越しに伴う経費である。

これらの結果、当年度支出合計は予算比140万円減となった。

3 全体収支

2022年度の単年度収支は約75万円の赤字となり、通常会計の次期繰り越し金は約112万円となる。

2018年に創設し1500万円でスタートした次世代基金は、2022年は、スタッフ人件費60万円、情報管理の臨時雇用33万円、及び脱軍備・基礎講座謝礼27万円などとして計128万円を支出した。基礎講座の受講料収入は約88,000円であった。その結果、約987万円が次期繰り越し金となる。

II 貸借対照表

以上の損益計算書を反映させた結果、2022年12月31日現在の正味財産は、通常会計で112万円、次世代基金が987万円、合計約1,098万円となる。